はしがき

平成23年3月11日に発生した、東日本大震災から12年がたちました。改めて、お亡くなりになられた方々の御冥福を心よりお祈りいたします。また、これまで国内外の皆様から心温まる多大な御支援・御協力を賜りましたことに、深く感謝申し上げます。

あの日、我が県では多くの尊い命が奪われ、生活の基盤を失うなど、いまだかつて経験したことのない甚大な被害に見舞われました。

東日本大震災は、地震や津波による痛ましい爪痕とともに、災害が発生した際に行政がとるべき対応や避難行動の在り方、防災・減災のために備えておくべき対応など、今後の大規模災害から県民の命と財産を守っていくために取り組む必要がある事柄について、多くの課題を残しました。同じ悲しみを二度と繰り返さないために、当時の経験や学びを次の世代に伝え、来る災害に備えることは、被災県である本県の責務であると考えております。

本書は、東日本大震災からの復旧・復興のプロセスにおける県職員の取組について、その段階や分野ごとに62のテーマを設け、職員一人一人が直面した調整や交渉等における苦悩や決断、後悔など、記憶をもとに語る学びや反省、次世代に向けた思い等を中心に構成しております。震災の混乱した状況の中で何が起き、職員たちはどの様に考え、知恵を絞り、行動したのか。何ができて何ができなかったのか。復旧や復興の取組を具現化していく過程や当時の雰囲気等を、本書を通じて少しでも感じていただけましたら幸いです。

発刊にあたっては、東北大学災害科学国際研究所の今村文彦所長、佐藤翔輔准教授に多大なる御指導、御協力を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

本書が、全国の行政関係者や防災関係者をはじめ、様々な場所で広く御活用いただき、復旧・復興に向けた取組や、これからの安全で安心な地域づくりにお役立ていただくことを切に願っております。

令和5年3月

宮城県知事 村井嘉浩